

皮膚悪性黒色腫罹患率の動向、1964-95年、大阪

田中 英夫* 津熊 秀明 富田 智史 味木 和喜子
北川 貴子 木下 典子 吉川 邦彦 大島 明

非白色人種の皮膚悪性黒色腫の罹患数は極めて少ないため、罹患数の年次推移に関する安定した成績の報告は、内外問わず、これまでほとんどみられていない。そこで、大阪府がん登録資料を用いて皮膚悪性黒色腫の罹患率の推移を、1964~71年、72~79年、80~87年、88~95年の4期(I~IV期)に分けて分析した。詳細部位別の罹患率の計測に当たっては、性別、年齢階級別、期間別の罹患率に、これと対応する性別、年齢階級別、期間別の詳細部位別罹患割合を乗じて求めた。年齢調整罹患率(標準人口は世界人口)は4期間を通して男1.9~2.7、女1.4~2.5(いずれも 10^{-6} 人年)と、極めて低率であった。男ではI期からIV期の間、罹患率はほぼ一定に推移し、頭頸部(ICD-9:1720-24)に発生する黒色腫罹患率の減少が、体幹(ICD-9:1725)および上下肢(ICD-9:1726-27)に発生する黒色腫罹患率の増

加傾向を相殺していた。これに対し女では上下肢に発生する黒色腫罹患率が急増したために、I期に比べてIII期では全体で1.8倍(95%信頼区間:1.3-2.6)、IV期では1.7倍(95%信頼区間:1.2-2.4)に罹患率が増加していた。

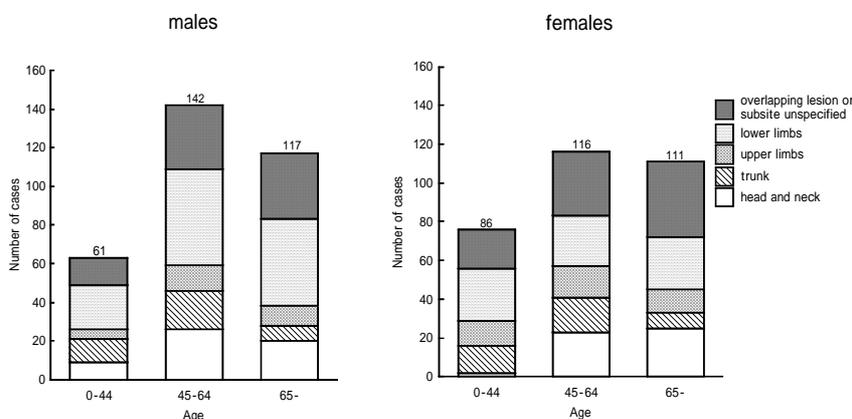


Figure 1. Incident cases of cutaneous malignant melanoma by anatomic subsites, Osaka, 1964-95

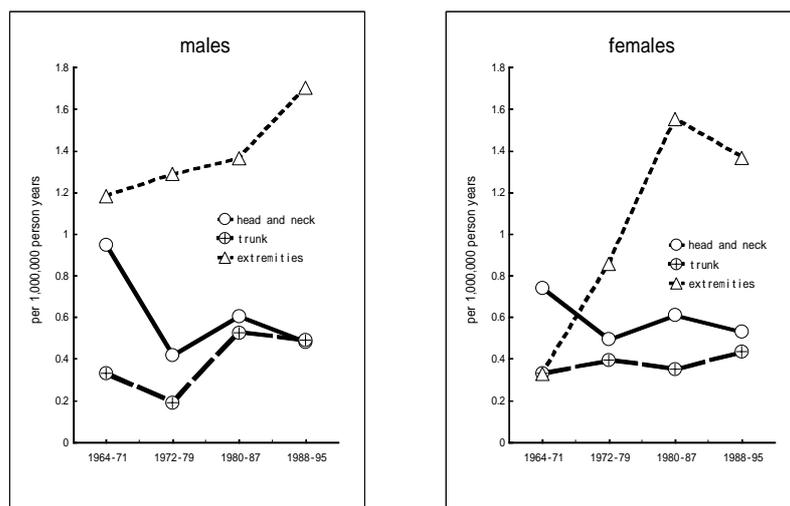


Figure 2. Trends in age-standardized incidence rates of cutaneous malignant melanoma by anatomic subsites from the Osaka Cancer Registry

*大阪府立成人病センター調査部